

## 3 / 26 食品に関するリスクコミュニケーション - 食品のトレーサビリティ - アンケート集計表（合計）（意見入り）

参加人数 106 有効回答 74  
回答率 70%

問1 あなたは意見交換会参加者ですか。傍聴者ですか。

	1参加者	2傍聴者
問1	22	52

問2 ご自身について、ご回答下さい。

	1消費者	2農林水産業	3食品等事業者	4マスコミ関係者	5地方公共団体職員	6その他
問2	22	5	26	4	5	13

問3 本日の意見交換会について、何からお知りになりましたか。

	1農林水産省のH P（報道発表資料）、配布物	2メールマガジン	3農政局のH P、配布物	4農政事務所のH P、配布物	5その他の行政機関のH P、配布物	6新聞、雑誌等	7その他
問3	43	13	5	5	2	0	9

問4 担当者の説明についてお尋ねします。説明内容について理解することができましたか。

	1理解できた	2だいたい理解できた	3あまり理解できなかった	4理解できなかつた
問4	39	35	0	0
全員ではありませんが、説明の言葉がはっきりしない。質問者の声がはっきりしない。 急いで説明なので話が判らない。大体知っていたのでなんとか判りましたが。				

追加問4 - 1 説明がわかりやすかったのはなぜですか。当てはまるものは全てご回答下さい。（複数回答）

	1資料内容が平易でわかりやすかった	2説明が明瞭で、的確だった	3適切な説明時間が確保されていた	4その他
問4 - 1	41	34	12	5

その他	事前に知識があったため。 ある程度内容を知っていたので。 トレーサビリティに関しては事前に学んでいたため。 たまたま家でソフト開発の人と話し合い中でした。 自分が大体知っていたから。良いことだと思った。
-----	---

追加問4 - 2 説明がわかりにくかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答下さい。（複数回答）

	1資料内容が専門的すぎて難しかった	2説明が難解だった	3説明が聞き取りにくかった	4説明時間が短すぎる	5その他
問4 - 2	1	1	6	11	7

その他	生産者段階でのこのシステムのメリットは？（青果物） ”対象”が不明瞭。 表面的な説明の部分があった。 図が小さい。（ルーペを持って来れば良かった） 全体は長すぎる。 話のトーンにメリハリが無い為聞き取りにくい。 もっとゆっくり話すこと。
-----	--

問5 今回意見交換会を開催したことを、どのようにお考えですか。

	1評価する	2やや評価する	3あまり評価しない	4評価しない
問5	49	23	1	1
	これからのスタートです。成果を急がないことです。安全・安心よりも安いことを求めている消費者がまだいますと共に、生産者も儲けるためには経費かけること、労力かけることを避ける人も多くいます。			

問6 意見交換会に出席されて、どのような感想を持たれましたか。当てはまるものは全てご回答下さい。（複数回答）

問7 今後、推進してほしい、食品に関するリスクコミュニケーションとして当てはまるもの全てに をつけて下さい。（複数回答）

問8 今後の意見交換会で取り上げるべきテーマとして重要と思われるものをご回答下さい。（複数回答）

問9 会の運営等、何かお気づきの点や感じたことがありましたら、ご記入下さい。

とても良い勉強になりました。ありがとうございました。消費者にとってトレーサビリティシステムの最大のメリットは食品の氏・素性が明確になるため、リスク管理などもスムーズにゆくことになることと理解しました。消費者にとって安心の一つの指標。トレーサビリティの進展をのぞみます。こうした集いは消費者団体だけでなく、地域などで一般消費者も含めて進めてほしいと願います。

メリットだけでなく、問題点や対策を説明してほしい。

説明時間の問題と思うが、将来の方向性、ビジョンについてと、その実現方策についての戦略説明がなかった。

輸入食品に関するリスクコミュニケーションをどう扱うか？

一般傍聴者の方が本当のプロが多い。前の消費者団体に配慮すぎる。（質問のレベルが的をえていない。こんなにレベルが低いとは思わなかった）すぐできるトレーサビリティの討議、説明がほしかった。夢でなく現実を。

質問に対して回答をまとめてするのではなく、1対1でした方がわかり易い。

計時のベル（リン）があって良かった。

現物の提示（卵のトレーサビリティ）は一般公聴側から見ても非常に理解できた。現物の提示は今後も活用していただくとトレサが身近に感じる所以、どしどと行なってほしい。

会場は広くゆったりとして拝聴できました。室内の温度が暑かった。

大変スムーズに運営し、一般消費者を混じえたのは良かった。やはり改革意識が浸透していると思いました。

ご努力を感謝します。

やはり大きな部屋で時間がたっぷりあることで、気持も楽でゆったりしているから、理解がしやすかったです。毎回参加したので気持も楽になったこともあると思いました。これからも続けてやって下さい。成果を急がないで下さい。これからの予定が決定したらどしどし知らせて下さい。

## 自由記入欄

カキのトレーサビリティにおいて、「価格が高くなても選択するか」という設問で、3分の1の人が必要ないと言っているのは無視できない数字。本当に必要なかどうかという調査はもっと必要なので実際には「あっていいけどなくてもいい」という程度ではないでしょうか。ユビキタスのお話はすごいと思いますが、本当に全ての人が利益を受けられるのか?消費者の中にはP C・ケータイも使わないう人もまだ多い。I Tを使ってもウソの情報だったら意味がない。それよりも、産地等の偽装がないか、農薬の不正使用がないかを行政がしっかりバトロー

トレーサビリティ ハイテク(ユビキタス等)は「公」ではやりすぎ、「民」の開発は賛成。ローテクの活用「例」比色紙による鮮度判定、温度センサー(使い捨て)、迅速細菌分析、等。現行保健所の活用(厚生労働省との合同開発)。何かトレーサビリティの方向づけが違うと思う。マスコミ受けにはよいが。

流通業者としてtraceabilityはどう取り組むのか。

生産者で入力する情報にうそがないことを保障するところのシステムが弱いのでは?別途必要では?消費者としては日常的には肥料や農薬情報の内容を知りたいとは思わないが、知りたいと思ったときに知ることが出来るシステムが流通段階に構築されていれば良いのでは?従って情報としては「たまご」「カキ」程度で良く、チップまではコストが高ければ不要。

トレーサビリティを実現させるためのユビキタスIDなどの技術はさらに進めていくべきものだと思います。ただ必ず常にコストの問題はついてきます。今日の講演ではコストがどれだけかかるかという情報が不十分でした。たしかに普及度合いによってコストはかかりますが、だからといってコストに関する情報は出せないでは困ります。常に、この場合の試算コストなどの情報をケースバイケースでよいので提供しつけていただきたいと思います。

以前GAPのお話を聞きました。ICチップが小さいので量的(カサ)にも問題はないかもしませんが、機能がすぐれているので付ける野菜が増えて来ると、問題は出ませんか?山形県東根市で生産物(さくらんぼ)が盗されました。さくらんぼはチップの無い物は販売出来ないと、流通ルートに乗せられないとかになって、盗難が無くなると良いと思いました。農薬の表示が出て、無登録農薬の時は表示が出ないので、使用する前に気が付くというようになると良いと思いました。私も端末がほしいです。

情報技術については、ローテクでもハイテクでも、トレーサビリティシステムを構築する事は可能であるが、情報の内容とビジネスモデルの確立を支援するような政策が必要と感じた。

ユビキタスコミュニケーションの説明にありました、コスト高をカバーする為に広告を入れることも可能とありましたが、特定の企業の宣伝で踊らされるのは(影響を受けるのは)良くありません。情報をゆがめる危険があります。小規模で良心的な生産者を守っていただきたい。

トレーサビリティシステムの個々のデータの、真実性・正確性・信頼性を保持するシステムが必要だと感じました。重量会計・物量会計や複数のチャンネルで情報提供に突き合せることなど、いくつかのアイデアが示されました。いくつかの方法をミックスして説明するしかないと思います。この証明システム・監視システムの開発も同時に併行して進めてほしいと思います。

このようなトレーサビリティがどんどん進むことに対する不安、生産段階での規格をつける時に不良品として棄てられるものが多量に出ないか?消費者が賞味期限などを重視して食べないで棄てるものが出ないか?など私のような高齢者にはもったいないという気持が湧いて来ます。これを無くすために生産者にはそれなりの対策を立てるとと思いますが、消費者への節約とかもったいないとかの気持を持たせる教育、「食育」をもっともっと進める必要があると思います。又食品が高くなることから一般化しないかも知れないこともあります。すべてに良い

高齢化社会を迎えており、食衛法・JAS・規約などの他、トレーサビリティなどの入力、検索など、高齢者には大変な世界である。目視・機械の操作など難しいし、かなわないと思う。食べ物は基本的にどこでも、誰が買っても食べても、安全でなければならないし、そうあって欲しいというのは理想すぎでしょうか。少なくとも最低のラインを作り、そのライン程度でよいのでは。

今回参加された方は、消費に対して意識の高い方々ばかりなので、国民全体としてはどうなのかという疑問は解決しておりません。どういう消費者から意見を聞くのかは難しいですね。

一部で消費者の横暴さを感じられた。国として、食と農のあり方、食育、をしっかり行うべきである。消費者に軸足をおいた農政をうたっているが、消費者を王様にしてしまっては、生産者はバカを見るだけである。

今日は希望していた内容の学習ができてありがとうございました。次の会合を期待しています。

今日配られた「ごはん」のパンフレットについて。白米と玄米とちがいや、玄米を食べることの良さなども同時に記してほしいと思いました。TV放送の時にはこのこともやって下さい。食べ方を知らない人が沢山いるので普及しないのです。

## 事務局より

今回いただいたご意見は、担当者に伝えました。

なお、質問に対し、その都度回答した方が良いという意見がございましたが、どのような進行が良いか今後検討する中で参考にさせていただきます。

全国各地で農林水産省、食品安全委員会、厚生労働省との共催で意見交換会を実施していますので、お近くで開催する際はふるってご参加下さい。また地方農政局や地方農政事務所でも食品安全に関する情報提供を行っていますので、ご活用下さい。農政局や地方農政事務所でも食品安全に関する情報提供を行っていますので、ご活用下さい。

登録していただいている消費者団体の方には、開催のご案内をEメールまたはFAXにてお送りしています。

「農林水産省ホームページのご案内」

リスクコミュニケーションの今後の予定については「消費・安全局 食の安全・安心施策の推進のための工程表」([http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20040109press\\_4b.pdf](http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20040109press_4b.pdf))をご覧下さい。

個々の開催については決定次第、「報道発表資料」(<http://www.maff.go.jp/www/press/press.html>)に掲載致します。

リスクコミュニケーション情報については、「食の安全・安心のための取組」([http://www.maff.go.jp/syoku\\_anzen/shokuhin\\_risk.htm](http://www.maff.go.jp/syoku_anzen/shokuhin_risk.htm))に掲載していますのでご活用下さい。

インターネット環境をお持ちでない方で資料が必要な場合は、お手数ですが下記までご連絡下さい。

(問い合わせ先)

農林水産省 消費・安全局消費者情報官付リスクコミュニケーション推進班 中山、渡邊、石井

電話番号: 03-3502-8111 (内線) 3334, 3335, 3338 FAX番号: 03-5512-2293